

## 令和4年度第12回 稲武地域まちづくり推進協議会 議事録

日 時	令和5年3月14日（火曜）午後6時00分～7時20分
会 場	稲武支所2階 団体会議室

### 1 あいさつ

○大内会長

昨日から、マスクの着用が個人の判断によるところになったが、引き続き着用している人が多いようだ。

本日が今年度最後の協議会になる。委員の積極的な協議をお願いしたい。

### 2 協議事項について

#### (1) 各団体からの現在の取組、課題などの発表について

##### ①稲武地域林業振興協議会

鈴木委員；

- ・林業振興協議会は、任意団体である。目的を果たせるために協議会員を募っている。協議会の概要は規約に基づいて説明したい。
- ・林業振興協議会は、稲武地域の豊富な森林資源を活用し、雇用の創出や定住の促進をすることにより、稲武地域の森林の保全と林業振興を図ることを目的としている。
- ・事業としては
  - ①木の駅プロジェクト（間伐材等の集材・販売・加工等）の研究・調整・施行事業を実施。具体的には、他県、他市、他地域の木の駅プロジェクトの視察・意見交換を4件、その他として全国木の駅プロジェクトに出席した。また、令和元年度から現在まで、約400m<sup>3</sup>を集材し、出荷者数は12名となり、稲武地域振興券である「イーナ券」を約220万円発行した。
  - ②林産物の生産、加工、販売にかかる事業として、チェンソー、簡易チルホール、薪割り機等の整備・貸出を行った。
  - ③林業施策の調査・研究にかかる事業として、植林、育林、伐採等の助成制度、林業事業者などの条件などの勉強会を予定している。
  - ④林業就業者の作業の安全、技術の習得にかかる事業として、伐採・出材にかかる安全講習を2回開催した。
  - ⑤都市住民との交流に関する事業として、ナルセコーポレーション（安城市）、トヨタ車体（刈谷市）、トヨタ自動車（豊田市）と、管理作業の共同実施などを行った。

- ・協議会員は、稲武地区内で林業を営む者やその協力者、林業に関心のある者及び林業に関係する団体で組織することにしており、現在は9名の個人会員となっている。協議会員は、様々な林業活動や協議会の共同活動を通じて、効率的な林業経営と山林の保全に努める責務を負うこととしている。
- ・活動を通じて思うところとして、稲武の小中学生が1学年あたり10人を確保できるためのまちづくりをしていきたい。
- ・お母さん方に住んでもらえるような魅力あるまちづくりを、地域住民が自分事として捉えて、計画的に実施したい。
- ・豊田市山村条例が、稲武のまちづくり計画の代わりになるとは思えない。
- ・稲武地域まちづくり推進協議会は、決定権がなければ決定権を持てるようにすればよいと考える。

## ②豊田市稲武支所

- ・支所長以下、15名の職員で業務にあたっている。市民生活担当は、住民票や戸籍を発行する事務、地域バスの運行管理、支所の施設管理、ハウスポニー等の管理運営などを行っている。
- ・地域振興（住民自治・定住促進）担当は、自治区・コミュニティ会議の運営支援、地域会議の運営、WRC・地方ラリー選手権開催に関する支援や準備、財産区運営の支援などを行っている。
- ・地域振興（観光振興・道の駅）担当は、道の駅再整備、どんぐりの里いなぶや観光施設の管理、稲武地域まちづくり推進協議会の運営などを行っている。
- ・なお、稲武支所特有の業務として、養蚕・製糸文化伝承事業、帰農者滞在施設の管理、面ノ木風力発電の管理がある。
- ・なお、もし大災害が起こってしまった場合、市民生活担当は最低限の業務を行うことになるが、地域振興担当の方の業務はストップすることになる。
- ・令和5年度の実施計画として、養蚕事業ではシルクフードの展開、商工会館については民間との連携、ラリーの実施計画の強化、どんぐりの里いなぶの業務改善計画策定の支援などを予定している。

## 3 各種話題提供について

### (1) ワーキング部会、各委員からの報告

古橋真人委員；古橋会で、「貴いシルク」というシルクブランドを立ち上げた。稲武シルクを使用した入浴剤を企画し販売している。現在、ECサイト、どんぐり横丁などで販売している。

また、4月8日（土）、9日（日）で企画展「にぎたえの里 稲武でお花見を

「楽しもう」を開催する。大正の大嘗祭について、B1パネルで展示する。

大内会長；支所長に聞きたいが、道の駅多目的広場のサッカーボール型のものは何か？周知が足りないのではないか。また、以前から要望していたどんぐり工房に至るスロープが設置できなくなるのではないか？

→杉山委員；サッカーボール型のものは災害用の貯水槽である。

→事務局（柴田担当長）；地元の武節町自治区には上下水道局から説明がされていると思う。

また、どんぐり工房へのスロープについては、将来的に、スロープ設置ができる場所を確保するため、貯水槽の設置場所をできるだけ奥の方にするように上下水道局に話をした。ただ、多目的広場とどんぐり工房の敷地には勾配がかなりあるので、スロープ設置の概略を出してみないと、どのような形状になるかは分からない。

古橋久三委員；たすけあいプロジェクトの現状について確認したい。電力価格高騰の影響はあるか？

→三江副会長；事業運営への影響は聞いていない。ただ、マイパワーの協力団体から中電が撤退したと聞いており、マイパワーは豊田市と新たな協定を結ぶ方向になっていると聞いている。

→古橋久三委員；市が資金を提供することになるのか？

→三江副会長；資金を出すとは聞いていない。状況が分かったらまたお伝えしたい。

鈴木委員；とよた山里ホールディングスの解散について、いつの間にか解散が決まっていた。地域に説明する必要があるのではと思う。ホールディングスがなくなったら、株式会社どんぐりの里いなぶは地域と歩調を合わせて経営していくことになるのか？そうだとすると、地域が株式を取得することも検討されるのか？

→杉山委員；とよた山里ホールディングスについては、一定の役割を終えたと判断された結果、解散することになった。現在は、会社をたたむための清算会社としての機能のみを有するものとなっている。

→佐藤委員；現在、どんぐりの里いなぶの株式構成は、とよた山里ホールディングスが90%、JAと豊田信用金庫がそれぞれ5%ずつとなっている。今後の株式の開放については慎重な検討が必要だと思う。

古橋久三委員；支障木伐採は今年度で終わると聞いているが、稲武町自治区内で

の実績がない。状況はどうなっているか？

→杉山委員；状況を確認し、別途報告する。

藤綱副会長；本協議会についてであるが、委員間の情報提供が主眼であれば、特に必要ないと考える。次の区長会長にはそのように引継ぎをするつもりである。

→古橋真人委員；例えば、協議会を使ってどんな展開をすべきか、もし意見があれば教えてほしい。

→藤綱副会長；決定権は各委員が持っている。それをこの場でひっくり返すことはできない。そこまではこういう会議体ではできないのではないか。

→石橋委員；自分たちは小さな団体なので、地域のことについて、意見を言ったり調整をする場面に立ち会うことができないため、本協議会の存在はありがたい。情報共有には必要だと考える。区長会に対して、お願い事があった場合に、自力ではなかなか伝えることができない。区長会にも参加してほしい。

→藤綱副会長；その場合、押山自治区なり川手町自治区なりを通してもらえれば、区長会には話が届くことになる。

古橋久三委員；他の団体がどのようなことを考えているのかを知るのに、この協議会は必要だと考える。「決定権がない会議はなくした方がよい」という意見ばかりではない。

鈴木委員；この協議会は、本来、稲武まちづくり構想を作る場であった。これまでのやり方では、「協議」になっていない。別に協議をすることは、他の団体のことを否定することにはならない。稲武全体を把握する場は、まち協しかない。まち協がないとすると、以前言ったような、区長会が一本化するようなことでもないと無理である。

古橋真人委員；協議事項は作り出さないといけないと思うし、協議事項を作るのは事務局である稲武支所が作るのも違うと思う。

藤綱副会長；そもそも、この協議会は何のための会議なのだろうか？

→鈴木委員；第2次稲武まちづくり構想を作ろうという提案に対して、回答がないのは残念であるが、協議事項としては、将来のことについて話すことの方が話しやすいと思う。地域自治の観点からすると、区長会長が出席する必要はないと思うが、区長会はメンバーに入っていないといけないと思う。とにかく、自分ごととして捉えることが必要である。

→古橋久三委員；当て職で出席するのはいかがかと思う。出席する価値があるから、会議には出席する。こういう考え方が必要なのではないか。

松井晃委員；生活交通利用促進委員会は、暮らし検討委員会が解散になった時にまち協を脱退したいと考えていた。区長会、地域会議、まち協の兼ね合いがどうなのだろうか。存在意義を整理する必要がある。

山田副会長；自分は石橋委員らの意見に賛同する。情報共有を経て、自分達で価値観を探すべき。

古橋真人委員；メンバーについて、まちづくりのプレイヤーに変更することはどうだろうか。

上田委員；JAとしても、道の駅を核としたまちづくりには賛同するところなので、後任者にも出席について引き継いでいきたい。

大内会長；どんぐりの里いなぶを核としたまちづくりや、まちなかの活性化などについて今後も協議が必要だと思う。区長会にも引き続き参加してもらって、協議会を続けていきたい。

三江副会長；次回以降も、会の在り方について引き続き協議していきたい。

#### **4 次回開催日**

令和5年度に入ってから日程調整する。

<以 上>